

弓道のわざ獲得過程におけるカテゴリの使用

稲垣 理美

弓道の学習・指導で扱う知識は、明文化された知識だけでなく、暗黙知としてのわざなど様々なものが含まれている。弓道のわざ獲得過程に関してカテゴリを用いて分析を行えば、学習・指導で扱う複雑な知識の理解や把握が容易になり、弓道の技術力向上や指導内容の説得力向上につながる期待される。本研究では弓道のわざ獲得過程の特徴をカテゴリ分析で明らかにすることを目的とした。わざの獲得過程には学習と指導の両面が関わっているので、わざを獲得する立場とわざを指導する立場それぞれについて検討した。

方法として、インタビュー調査とテキストブック調査を用いた。インタビュー調査は、弓道のわざ獲得過程にある、弓道経験年数が5か月から8年の人を対象に筑波大学体育会弓道部の関係者6名の協力を得て行った。インタビューでは、練習などにおける意識や指導する立場に関する考えなどを質問した。テキストブック調査は稲垣(2007)の『日置流印西派歩射弓道教本』を使用し、テキストブックの記述を内容にしたがって単位に区切り、カテゴリの作成やインタビュー回答の比較に用いた。

わざを獲得する立場の意識の面からの結果と考察から、弓道のわざ獲得過程の特徴として次のものが得られた。テキストブックの記述を基準にして対象者間のインタビュー回答の比較を行った結果、対象者によって意識は様々に違っていることが分かったが、違いを具体的かつ詳細に明らかにすることはできなかった。インタビュー回答を、テキストブックから作成したカテゴリを用いて分析を行うことで、弓道のわざである射法八節が進行するにつれて【位置】カテゴリから【力】カテゴリへ意識が変化していくことが明らかにできた。インタビュー回答とテキストブック記述の語彙の特徴を山口(2003)の『日本語大シソーラス』のカテゴリを用いて分析した結果、意識を表現するための語彙にはものや動作の様子や動きそのものを指す語彙が多いことが明らかになった。また、シソーラスのカテゴリを用いることで、テキストブックと対象者それぞれの違いから、対象者の特徴を見ることができた。さらに、シソーラスで「位相・空間」としてまとめられた語彙の使用割合についてクラスタ分析を行った結果から、経験年数が高い人や練習量を重視する人は動作に関係する意識について独自の意識を持っていることが分かった。以上の分析から、カテゴリやクラスタを用いることで弓道のわざ獲得過程にある人の意識の整理がしやすくなったり、特徴を理解しやすくなったりすることが示せた。

また、わざを教える立場の面からの結果と考察から、弓道のわざ獲得過程の特徴として次のものが得られた。指導する際の意識に関する質問の回答から、指導を行う際は指導される側のレベルを考慮することが分かった。テキストブックの記述では、同じ内容を異なる表現で繰り返す記述がみられ、表現の様態として「詳細」、「反対の例」、「言い換え」、「まとめ」の4つがあった。このことから、説明した内容や指導内容が正確に理解されるようにする工夫があると考察された。

本研究では、カテゴリによって弓道のわざ獲得過程における意識の整理が容易になることを示した。これは、技術力向上や指導内容の説得力向上だけでなく、わざの伝承で必要とされる感覚の共有の準備にも用いることができると考えられる。

(指導教員 緑川信之)